

# 前橋藩から朔太郎へ

## ～母方八木家と藩士諸家の文書展～

展示期間 令和4年8月6日（土）～令和5年1月15日（日）

令和4（2022）年は、詩人の萩原朔太郎没後80年です。朔太郎の母けいの実家八木家は、前橋藩主松平大和守家の家臣でした。

近年当館には、酒井家・若林家・多加谷家など前橋藩士であった家の古文書等も多数収蔵されています。

今回の展示は、八木家を中心に前橋藩士諸家に伝わった古文書等を通じて、朔太郎の故郷前橋とその先祖の歴史、八木家と萩原家の密接な関係の一端をご紹介します。

なお、この展示は、朔太郎大全実行委員会主催「萩原朔太郎大全2022」との共催事業です。



八木家親族写真（三列目左から2人目が長恭、3人目が始、5人目が俊一郎、右端が萩原朔太郎、二列目左から4人目が俊一郎妻静、明治後期に前橋で撮影か、八木健次氏所蔵）

### 1 前橋城の姿

①〔前橋城絵図〕＊彩色 近世後期 中村卯三郎家文書 P0412 No.1



利根川本流が高浜曲輪に直接突き当たり、本丸など曲輪の直下を流れています。

描かれた時期は不明ですが、こうした利根川の切迫した状況から、松平氏が入封した頃の様子を描いたと見られます。

城内部の櫓・門・橋などの建造物が詳細に描かれています。堀・水路は藍色、道は黄色、橋は赤色、土塁は黄緑色、土塀は白色で着色されています。

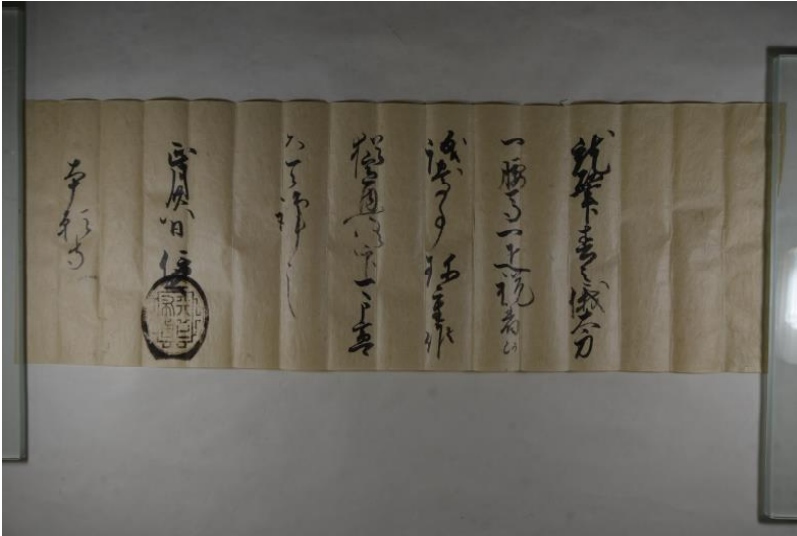
## 2 華麗なる家臣の来歴

### 八木家の来歴

初代の八木隼人正定長は、本願寺第12代門主准如の時代に本願寺家臣として活動していたと考えられています。そうした関係から八木家には本願寺が受け取った文書が伝来したと推測されています。隼人は寛永14（1635）年時点でも本願寺家臣として確認でき、終生本願寺に仕えていた可能性が高いようです。

隼人には実子がなかったため、横田内膳の9男が養子となり八木権左衛門と名のり、延宝7（1679）年姫路藩主松平直矩に仕官したとされています。その後、松平大和守家とともに奥州白川（河）などを経て前橋に移ってきました。

### ④〔織田信長黒印状〕 天正9（1581）年カ正月28日



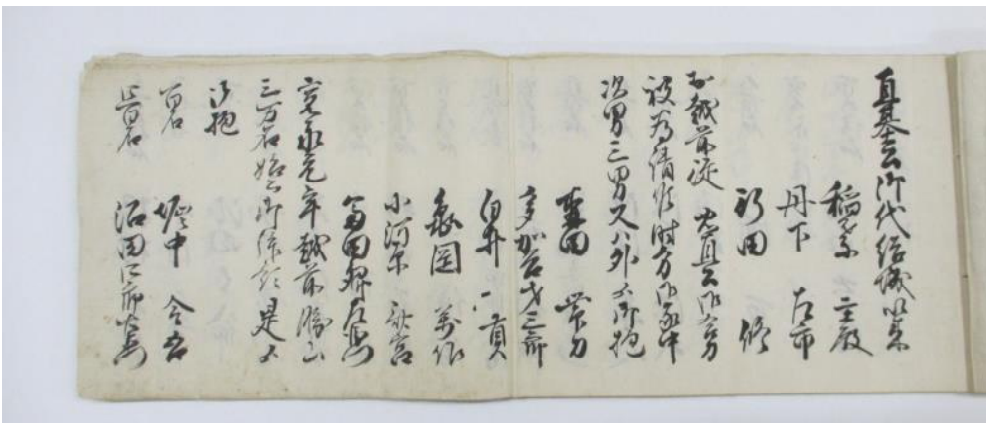
八木健次家文書 P09702 No.1592-10

初春の祝儀として本願寺から織田信長に贈られた太刀・馬に対しての礼状です。

松井友閑（生没年不詳）が信長の使者として取り次ぎを行っています。松井友閑は、織田信長の家臣で、大坂の本願寺や京都・畿内の寺社との交渉に当たっていました。

この文書の該当年次は、信長が本願寺と和睦した、第1次和睦の天正元（1573）年、第2次和睦の天正4年、第3次和睦の天正9年・10年のいずれかで、おそらく天正9年と推定されています（青木裕美「八木家文書とその伝来について」）。

### ⑩御家中六番士以上住口帳（分限帳） 享和2（1802）年7月朔日

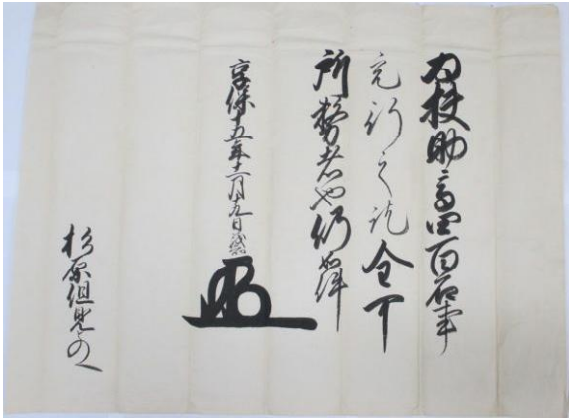


酒井保敏家文書 P0005 No. 5

「寛永元年越前勝山以来諸士住口御調、文化4年5月平野氏より借り請け之を写す」の記載から、初代松平直基が寛永元（1624）年越前勝山藩主となって以降、享和2年までに松平家に仕官した家臣団の名簿を、文化4（1807）年に書写した史料であることがわかります。前橋藩士の家が、松平大和守家に仕官した時期や場所などがわかる貴重な史料です。

### 3 殿様と家臣・町人

- ⑭〔松平義知（明矩）宛行状〕 享保15（1730）年11月19日



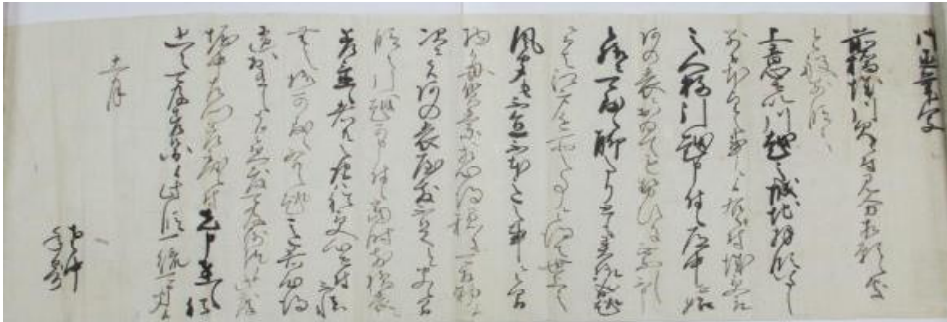
白河藩主松平義知（明矩、1713～1749年）が、一番番頭の杉原但見正房へ400石の知行を与えた文書です。

料紙は堅紙8折り、藩主の署名花押が用いられています。松平家では、花押は番頭次席以上、堅紙は役付き以上の上級家臣に用いられることになっていました（稲葉朝成『結城松平家と家臣団』）。

杉原氏は寛永11（1634）年姫路において松平氏に仕え、のちに400石の家禄となり、番外頭・参政などの職を勤めています。

大沢末男氏収集文書 P08422 No.3

- ⑮〔書状〕（御直書写、川越城拝領につき引越一件） 明和4（1767）年カ11月



若林茂生家文書  
P01207 No.68

この文書は、度重なる利根川の氾濫で前橋城が削られ、幕府から川越への転封を命じられた明和4（1767）年頃の書状と考えられます。

城を受け取るため、家臣たちに前橋から川越への引越を命じましたが、その際に騒がしくならないようにと指示しています。宛所は「老中・年寄」となっていますが、文末に「此の段一統申し聞かすべく候」とあり、家臣全体へ伝えさせるための書状と考えられます。

- ⑯武州川肥城主松平大和守齊典公御嫡子紀五郎殿初メテ登城之図 年次不詳



豊田芳郎  
家文書  
P08107  
No. 1

原寸 縦16cm×横600cm、旧前橋藩士豊田家に伝わった絵巻です。第4代川越藩主（当時前橋は川越の分領）松平齊典の養子紀五郎齊省が嫡子として江戸城に初登城した様子を描いています。

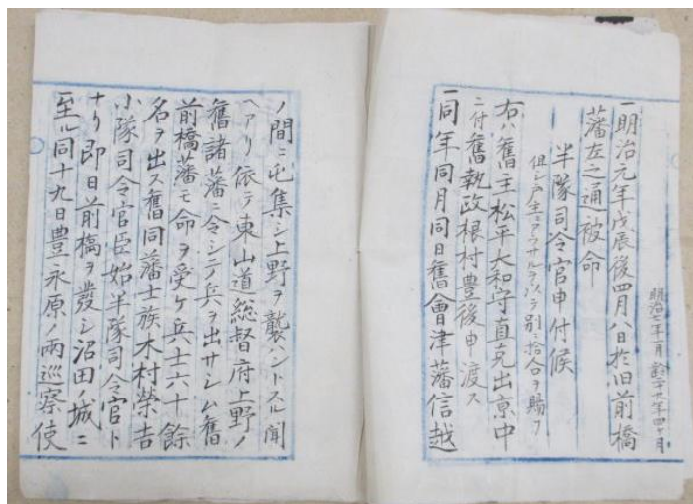
松平紀五郎は、11代将軍徳川家斉の25男で、文政10（1827）年に松平齊典の養子となり、第3代藩主松平直温娘を正室にしました。世子（跡継ぎ）として天保6（1835）年に叙任されましたが、家督を継ぐことなく、天保12（1841）年に19歳で死去しています。

#### 4 八木家と萩原家

萩原朔太郎の祖父八木始（1844～1921年）は、川越藩大筒方心得・前橋藩権大属などを務めた後、群馬県初の学区取締、師範学校副校長、東群馬南勢多郡長、勢多郡長、邑楽郡長などの地方官を歴任しました。

明治35（1902）年からは旧主松平家の家扶・同家家令・同家相談人を勤め、旧前橋藩主松平家邸内に住み、松平家に仕えました。その間、『公私備忘』などの記録を書き残しており、筆まめな人であったようです。

#### ㊸ 履歴書 明治7（1874）年6月



八木健次家文書 P09702 No.1380

これは、熊谷県貫属士族・前橋石川小路居住、旧禄150石・改正高現米26石、当時学区取締勤だった八木始長綱の履歴書です。

明治元（1868）年の戊辰戦争における三国嶺（峠）の戦功から第17番中学区取締に任命される明治6年7月までの履歴が記されています。

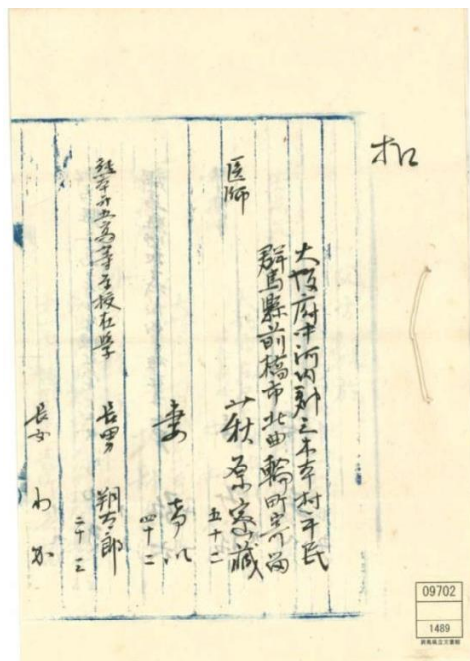
中でも三国嶺の戦いの様子が詳しく書かれています。八木始は、藩から「半隊司令官」を命じられ「小隊司令官」木村栄吉とともに前橋藩兵60名を率い、信越国境に集まった会津藩兵と三国嶺で戦い、敵将弟の町野久吉の首級を挙げる活躍を見せています。

#### ㊹ 〔萩原家家族書〕 明治41（1908）年カ8月

朔太郎の父方萩原家・母方八木家の家族関係がわかる興味深い史料です。

朔太郎が熊本の第五高等学校に入学したのが明治40（1907）年9月で、翌年9月に岡山の第六高等学校に転校していることから、明治41年の史料と考えられます。

父密蔵は、大阪府中河内郡三木本村（現八尾市）出身で、漢方医だった萩原家の4男に生まれ、西洋医学を修得するため東京医学校別課で学びました。そこを優秀な成績で卒業して前橋の病院に勤め、八木けいと見合い結婚をしました。



八木健次家文書 P09702 No.1489

〒 371-0801 群馬県前橋市文京町 3-27-26  
TEL : 027-221-2346 FAX : 027-221-1628  
E-mail : monjyo@pref.gunma.lg.jp



# 令和4年度 テーマ展示「前橋藩から朔太郎へ ～母方八木家と藩士諸家の文書展～」

期間：令和4年8月6日（土）～12月25日（日） 前期：8月6日（土）～10月2日（日） 後期：10月8日（土）～1月15日（日）

No.	史料表題(古文書表題・公文書件名)	和暦年	西暦年	月日	古文書文書群名・ 公文書簿冊名等	請求番号・ 受入記号	文書 番号	形態	会期	展示 形態
<b>1 前橋城の姿</b>										
①	[前橋城絵図]* 彩色、91.0cm×97.4cm	近世後期			中村卯三郎家文書	P0412	1	絵図1舗	全	タペストリー
②	松平氏再築ノ前橋城図(群馬県庁所蔵控図を大正八年七月中に旧前橋藩主松平伯爵家の原図に基づき増訂)	慶応3年	1867		群馬県行政文書	A0384A0G	83	絵図1舗	全	パネル
③	[写真](群馬県庁旧玄関) 17×13cm	昭和2年	1927		鹿沼誠家文書	P08809	45	写真	全	パネル
<b>2 華麗なる家臣の来歴</b>										
④	[織田信長黒印状]* 包紙有 17×50cm	(天正9年カ)	1581	正月28日	八木健次家文書	P09702	1592-10	切1通	全	複製
⑤	[飛鳥井雅庸書状](八木隼人宛蹴鞠・糸紐免許状) 35×45cm			2月18日	八木健次家文書	P09702	1592-4	縦1通	後期	複製
⑥	[花押集] * 部分、30.0cm×577.5cm	年次不詳			八木健次家文書	P09702	1593	1巻	全	パネル
⑦	[加藤清正書状](米五千石輸送) 31×45cm			5月26日	栗間良輔家文書	P0010	3	折1通	全	複製
⑧	宛行知行分之事(越前三国領東長田村・丸岡領南足 田村100石) 46×33cm	慶長17年	1612	6月3日	若林茂生家文書	P01207	1	縦1通	全	複製
⑨	[戸田氏鉄知行宛行状](高150石) 54×38cm	寛永9年	1632	8月朔日	若林茂生家文書	P01207	70	折1通	全	パネル
⑩	御家中六番士以上住口帳(分限帳、寛永元年越前勝山以来諸士住口御調、文化4年5月平野氏より借り請け之を写す) * 部分 32×12cm	享和2年	1802	7月朔日	酒井保敏家文書	P0005	5	横長1冊	全	複製
<b>3 殿様と家臣・町人</b>										
⑪	御国替覚(直基公御代・寛永元年勝山3万石より直温公 御代・川越15万石の明和4年～文政12年迄) 59×16cm	(近世カ)			八木健次家文書	P09702	1316	継1通	全	複製
⑫	[焼失に付酒井家代々領主よりの御判物写并母方河合より伝わり候物写し] 27×17cm	(文政8年)	1825	2月	酒井保敏家文書	P0005	18	縦1冊	全	複製
⑬	御指物写 一(御旗、御纏、御馬印、他) 16×24cm * 部分	明和2年	1765	5月	酒井保敏家文書	P0005	59	縦1冊	全	パネル
⑭	[松平義知(明矩)宛行状] 杉原但見宛 67×51cm	享保15年	1730	11月19日	大沢末男氏収集文書	P08422	3	1通	全	パネル
⑮	御家譜略記 全 * 「松平直賢＝朝矩」部分 20×26cm	(天保11年)	1840	11月1日	八木健次家文書	P09702	255	縦1冊	全	パネル
⑯	[松平直賢(朝矩)宛行状](高200石) 59×46.5cm	宝暦2年	1752	9月16日	川木敏夫家文書	P8712	5	縦1通	全	パネル
⑰	諸国名家短冊集(蕪村・其角・千代女・白雄・羽鳥一紅・松井素輪ほか、上州内外の俳人の短冊) * 部分	(近世カ)			松井家旧蔵文書	P01013	416	1帖	全	パネル
⑱	[書状](御直書写、川越城拝領につき引越一件) 46×16cm	(明和4年カ)	1767	11月	若林茂生家文書	P01207	168	切継1枚	全	複製

No.	史料表題(古文書表題・公文書件名)	和暦年	西暦年	月日	古文書文書群名・ 公文書簿冊名等	請求番号・ 受入記号	文書 番号	形態	会期	展示 形態
⑲	遊軍二番寄帳(家老、千石、上下貳拾八人馬二疋多賀谷左近の記述有) 24×32cm	天保13年	1842		多加谷敏則家文書	P1108	29	豎1冊	全	複製
⑳	一生ノ内拵置度品々(武具・馬具など) 15×56cm	天明2年改	1782		若林茂生家文書	P01207	211	切継1枚	後期	複製
㉑	(和歌五首)[八代藩主斉典の養子、将軍家斉の二十四男紀五郎斉省の歌] 70×18cm				井田笑子家文書	P8001	33	継1通	全	パネル
㉒	武州川肥城主松平大和守斉典公御嫡子紀五郎殿初メテ登城之図				豊田芳郎家文書	P08107	1	軸1巻	全	複製
㉓	[写真](故正三位松平直克肖像) 11×15cm	(明治カ)			八木健次家文書	P09702	1579	1葉	全	パネル
㉔	[松平直克宛行状](扶助として高150石事宛行)*包紙有 八木俵司宛 63×49cm	文久2年	1862	11月7日	八木健次家文書	P09702	577	豎1通	全	パネル
㉕	上毛国前橋御城下北<題箋>(衆判所・会所・講学所、前橋 城内外藩士屋敷名の記載有) 80cm×81cm				豊田芳郎家文書	P08107	7	絵図1舗	全	パネル
㉖	御城築御普請御古達請書 * 西領大胡宮関村大川氏	文久3年	1863	12月	中島正家文書	P08814	853	1冊	全	複製
<b>4 八木家と萩原家</b>										
㉗	履歴書(三国嶺の戦功など明治6年7月迄の履歴)	明治7年	1874	6月	八木健次家文書	P09702	1380	豎1綴	全	パネル
㉘	着発弾伝授(江川太郎左衛門 →八木始) 18×49cm	(元治元年)子	1864	8月	八木健次家文書	P09702	829	切1通	全	複製
㉙	藩制(綱領書、大政官→)	(明治3年)庚午	1870	9月	八木健次家文書	P09702	434-1	豎1冊	全	複製
㉚	[八木始家人別書、出頭人宇田遜方へ書出扣]	明治4年	1871	7月	八木健次家文書	P09702	1305-6	折1通	全	複製
㉛	[宣旨](任前橋藩権大属)*包紙有 59×45cm	明治3年	1870	11月13日	八木健次家文書	P09702	1563	豎1通	前期	パネル
㉜	[任群馬県勢多郡長](内閣総理大臣伯爵伊藤博文宣→八木始) 31×23cm	明治29年	1896	4月1日	八木健次家文書	P09702	856	豎1通	後期	パネル
㉝	明治四十年一月 公私備忘(1月1日~12月23日迄の日記) * 部分	明治38年	1905		八木健次家文書	P09702	119	豎1冊	全	複製
㉞	[写真](前橋城址之碑) 10×16cm				鹿沼誠家文書	P08809	46	1枚	全	パネル
㉟	[萩原家家族書、父方・母方親族書扣](医師 萩原密蔵 52、妻けい 42、熊本第五高等学校在学 長男 朔太郎)	(明治41年カ)	1908		八木健次家文書	P09702	1489	罫1綴	全	複製
㊱	こゝろ扣(日記)大正4年9月 * 部分	大正4年	1915	9月	八木健次家文書	P09702	1510	豎1冊	全	複製
㊲	八木家親族写真				八木健次氏所蔵				全	パネル
㊳	[萩原密蔵書状](俊一郎君容躰面白からず候由、過日は朔太郎初め大勢罷出御役介に相成る旨礼状)	大正2年	1913	5月29日	八木健次家文書	P09702	1481	切1通	全	複製
㊴	[萩原けい書状](預り金遣い方報知、〆金11円20銭使い残金80銭の内訳)*封筒有	大正2年	1913	12月13日	八木健次家文書	P09702	158	1通	後期	複製
㊵	地券(群馬郡前橋石川町28番 宅地456坪余、地価47円19銭6厘) 39×23cm	明治12年	1879	1月20日	八木健次家文書	P09702	1285	豎1通	全	パネル
㊶	香奠帳(知事 南部光臣、郡長 福田伊八、校医 萩原密蔵など、香奠全額204円70銭、他) 31×12cm * 部分	明治41年	1908	4月19日	山高幾之丞関係文書	P01111	12-4	横長1冊	全	パネル